

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 5月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 3 4 7 0 1 0 3 5 8 5
法人名	医療法人 社団長寿会
事業所名	グループホーム はたのりハピリ
所在地	広島市安芸区中野5丁目13-30 (電 話) 082-893-3636
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成21年5月12日

【情報提供票より】( 21年 5月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	24 人 常勤 15人, 非常勤 9人, 常勤換算 6.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての, 1階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 200,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

### (4) 利用者の概要( 5月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	5 名
要介護5	8 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 77 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	はたのりハピリ整形外科・行武歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはたのりハピリは、小高い丘の3階建ての建物で近くに国道やJRが通り、畑や田、工場、住宅と生活圏に囲まれている。母体法人の老人保健施設が併設されており、開所当時より特にリハビリに取り組み、豊富な経験が蓄積されている。利用者は、日常の中で併設の老健施設で積極的に機能訓練を行っており、ホームは施設間の総合的な連携のもとに運営されている。地域との付き合いでは、亥の子祭りや、とんど、盆踊り、近くの神社での神楽見物、初詣等積極的に地域に参加しホーム内に閉じこもらず生きがいのある生活が送れるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘のあった課題について、職員ミーティングで話し合いを深め引き続き検討されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価の意義や目的を十分に理解し、利用者へのサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、家族代表、利用者代表、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、老健看護師長、事務長、事業所職員2名が参加している。会議では事業所の取り組み状況の行事報告や参加者との意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関にご意見箱を設置し家族の要望や願いを聞きながらサービスの提供を行っている。家族会や行事に家族も共に参加し交流を深めている。利用者の暮らしぶりやホームの様子を「せせらぎ」便りとして年4回発行し家族に報告している。また個々に変化があった場合電話連絡をし、面会時に近況や預かり金の出納状況を報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に積極的に参加し、町会行事のとんど、亥の子祭り、盆踊り、夏祭り、小学校の運動会等地域の方のおつきあいもあり、地域との交流も盛んである。散歩や買い物などのときには、出会う人と挨拶を交わしている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のグループホームとして運営理念の中に「地域住民の一員として生活する」と掲げ、その人らしく暮らしていけるように支援している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭に置いたケアができるように寮母室と談話室に掲示し、毎月のミーティング時に確認も含め職員全員で読み上げを行い、地域密着型のあり方を理解し実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のとんど、亥の子、神社で神楽の行事に参加したり、年頭には神社に初詣に出かけたりしている。又併施設設で行われるボランティアの方々の踊りを見たり忘年会や親睦会に参加し、地域と密接に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義を深く理解し、評価結果は職員ミーティングで共有し、改善事項については、話し合いを深め改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・家族代表・入居者代表・民生委員・地域包括支援センター職員・老健事務長・老健看護師長・グループホーム管理者・職員・が出席し2ヶ月に1回開催している。		

グループホーム はたのりハビリ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	土曜日に、会議を開催するため自治会の方と市町村担当者の都合が合わないため取り組めていない。		自治会の方や市町村担当者が参加できるように会議日程の調整を期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付する時に利用者お一人お一人の状況を手紙を添付し、行事予定や参加のお願い、衣替えの連絡をしている。面会にこられる家族については、その都度職員が状況を説明している。また変化があった時には、その都度電話で連絡を取っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置き意見や苦情を聞くようにしている。また来訪時に聞き取りしたり、運営推進会議の席上にも出して検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は1階2階3階と2ヶ月に1人移動しますが、利用者に不安を与えないよう日頃からリハビリ等合同の行事で職員全員が顔馴染みの関係を築いており利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で合同で毎月1回開催し外部講師等招いての職員研修を行いレベルアップに努めている。県外での研修にも参加しグループホームについて研究発表も意欲的にしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安芸区地域密着型サービス事業所の同業者と行政の担当者が参加し情報交換会を年2回行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム はたのりハビリ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの見学等はできますが、体験入居は現在満床のためできない。入居後は利用者にホームに慣れて頂くために、家族と相談しながら、ドライブ・草取り・散歩・レクリエーション・クラブ等で心のケアをしながら馴染んでもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事やレクリエーションや同法人のリハビリに参加し本人の出来る範囲で日々の関係作りをしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お一人お一人の思いがあるので声かけをしながら、無理強いしないようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見を取り入れながら介護計画作成担当者3人が揃って互いに話し合いながら介護計画を作成している。</p>		<p>介護計画作成担当者だけではなく職員も参加して介護計画を作成することを期待します。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護保険の期間に応じて見直しを行い家族の要望やリハビリ等を考慮し状態の変化があった場合はその都度即したケアプランを作成している。</p>		

グループホーム はたのりハビリ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の老健を常々利用しリハビリや行事に参加している。主治医は法人本体に在籍し、師長は施設の近くに住まいし24時間対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人本体の主治医が月2回回診している。またその他の病院へは家族が付き添い通院している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について利用者の家族と話し合い支援方法や医療的処置などの方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	元気を出す言葉10ヶ条を事務所に掲げ職員で唱和し、人生の先輩として尊厳を持って言葉かけや対応を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味活動や外出の支援は利用者一人ひとりの体調の変化を見ながら、その日の状態や希望、本人のペースに応じた柔軟な支援を行っている。		

グループホーム はたのりハビリ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接の老健の管理栄養士が計画した食事を一緒に準備している。汁物は、利用者と職員と一緒に調理し、同じテーブルで職員も食事介助と歓談しながら食事をし、片付けも共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回午後の時間を利用して行われている。毎日入浴を希望される利用者には対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々のクラブ活動や年間行事を豊富に計画し、能力に応じた趣味や役割を楽しみ、喜びのある日々を送れるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週5日隣の老健に出かけてリハビリ体操に参加している。希望に応じて近くのスーパーや公園に買い物や散歩に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関居室共に鍵はかけていない。帰宅願望のある利用者にも、職員が見守りを行い夜間は、モニターにて廊下や玄関周りは確認している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回隣接のショートステイと合同で避難訓練や消火器の使い方の確認を行っている。またそのうち1回は利用者も全員参加で消防署の協力により避難訓練を実施している。		

グループホーム はたのりハビリ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスや食事は、併設施設の管理栄養士に支援してもらい調理している。また水分補給には特に気をつけお茶ゼリー等で1日1200ccの水分量を摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関には季節の花々が生けられ、廊下や居間には利用者の方が書かれた習字や絵が飾られている。浴室トイレ等においても身体機能に考慮された安心・安全仕様の形態となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、カレンダーや写真・額・花が飾られ、ベッドや、家具が持ち込まれ居心地の良い居室となっている。		